
バカと妖魔と召喚獣～狼少年と白き鹿～

OOO · JANIKELU

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカと妖魔と召喚獣／狼少年と白き鹿／

【NZコード】

N8448Z

【作者名】

OOO・JANIKELU

【あらすじ】

昔…蒼き狼と白き鹿…そして黒い妖魔がいた

舞台は学園！敵は仲間達？妖魔に取り付かれた人を救うために吉井明久とおなじみのメンバーが立ち上がる！これは馬鹿な少年が悩みを抱えた人に出会い、解決し…仲間達とAクラスを目指す恋愛バトル！メーデイ！シリアルス、裏描写を突き抜け限界までを目指します！（笑）

第零問・プロローグ（前書き）

「ねえ……もし……命があと一日しかなかつたらあなたならどうす
る？」

第零問・プロローグ

「きやつ……！」

ある時、一人の少女が足を滑らせ神社の階段から落下する…。この如月神社は滑りにくいのだが…誰かがゴミを必ず捨てていくと言わ
れている

「…………！」

少女は目を瞑り衝撃に備えた

ある日…少女は神社へ向かつた…彼女は文月学園出身の高校一年生である

名は琴吹　由莉奈　(ことふき　ゆりな)

吹奏楽に入つていて…毎日を懸命に生きるとても優しく頑張りやな少女だ

「」

由莉奈は軽いステップで神社へと向かつ林の道を通る…文月学園のブレザーが光に照らされ良い具合に綺麗で、スカートもはためいている

由莉奈は毎日、この神社へと向かう

由莉奈は幼い頃、幼なじみがいた…とても優しく勇敢な男の子だ…しかしある時、重い病にかかり、彼女は必死にこの神社に毎日祈つていた

結果、彼は再び元気な姿で毎日を生きている

『神様ありがとうございます…』

由莉奈はそれからとこりもの毎日、幼なじみを助けてくれた神社へ
とお参りに行くのだ

「神様…待つてね！」

由莉奈は階段をリズム良く登つて行く。少し最近部活で習つた歌を
口ずさみながらタンタンと規則よく

ズルツ

「え…？」

あと一段といつ所でお菓子の「パリ」引つかかり滑つてしまつた…そ
のまま尻餅をつくわけではなく真っ逆さまである
この神社の階段はかなり急だ…毎日登つてる人にとっては訳ない
が落ちるとなるととても危険な階段である

（助けて………）

由莉奈はぎゅっと目を瞑つて必死に祈る…死にたくない…それだけを
祈つていた

ボスンッ

彼女はそつと目を開ける…ぶつかってはおらず何かに支えられていた

「大丈夫か？」

「……あ……」

そつと降ろされ由莉奈はすかさず声の主を見た。が、彼は既に背を向けて歩き出した

「文月学園の制服…………」

由莉奈はただ彼の背中を洩れるまで眺めていた。

彼の名は吉井明久。由莉奈と同じ一年であり、同じ学園の生徒であった

由莉奈は知らなかつた。これが彼との四年ぶりの再会だと言つ」と
に

設定など

皆さんどうもー！ということで新しい小説のスタートです
バカ恋があるので更新は遅めになります

以下からは設定についてです

話しあ戦いと恋愛です！しかし戦いの方はほとんど残酷です
明久×オリです！

明久はあることにより口調や性格が変わっています
雄一と明久は雄一の妹のおかげで対立が少ないです
バカテスのあるメンバーは特殊な力があります

以下が気に入らない方はお戻りください
バカ恋並みに甘さシリアルをを目指してますので苦手な方はコーヒー
をお忘れなく（笑）

第一章・ゆりなシロジカ（前書き）

「会いたい…ただそれだけだった」

「運命…そんなものはないと思つていた」

第一章・ゆりなシロジカ

昔、天を支配する蒼き狼がいた……気高くそして素晴らしい生き物だった

同じく地を支配する白い鹿がいた……清らかでそして美しい生き物だった

二匹は結ばれ子孫を産む……そしてこの世に蒼き狼と白き鹿と契約した者が誕生したのだった

それとは別に……海を支配していた妖魔が存在していた。妖魔は妖怪に似た化け物で人に取りつき苦しめる

蒼き狼と白き鹿はその妖魔を喰らう……それが使命であり、彼らの宿命なのだから

同様に契約した者もしかり……そして妖魔との争いは未だに終わりを告げてはいない

・再会と試験召喚戦争と蒼い狼

春……それは新たなスタートを切るにふさわしい季節だ……僕、吉

井明久は今年私立文月学園で二度目の学園生活を送る

振り分け試験を終え、それこそんびりしすぎたせいだろう……ゲームをやりすぎて遅刻をしかけていた

「……はあ……」

ゆっくりと両脇に咲く桜達に祝福されながら坂を上る。まあ今年も満開に咲いたもんだ
しばらく歩いていると校門が見えてくる

……の一歩を踏み出した時、新しい学園生活が始まる！

「遅刻だ吉井！」

「…………西村！」

ぐわああ！まさかとは思っていたけどあいつが振り分け試験結果を配ってるなんて……いきなり不幸だ！

ガツン！

「だあつ！何するんだ！」

「西村先生と呼べ！全く貴様は去年の冬からおかしくなりおつて……」

「…………」

言いたいけど言えない……僕が変わった理由なんて誰も信じてはくれないのだから

「まあいい。それより振り分け試験の結果だ」

「ああ……やつぱりか」

「やうだ……吉井一言いいか？」

西村の声に頷きながら封筒をピリピリと破していく。振り分け試験

というのはまあクラスを決める為のものだ

良い奴にはAクラスで豪華な生活、最下位の奴には最低な設備での生活。全くババアの考えることはわからない

「去年からお前を見てきて吉井は少し変わったがやっぱり馬鹿

じゃないのかとすつと思つていた

「は？何を言つてゐんだ。そんな訳ないだろ？今にあんた『節穴』つて呼ばれるぜ？」

「ああ…そつ言われてもおかしくないな

「はは…わかれればいいんだ」

ゆつくりと封筒から紙を取り出しパラリと開いた

吉井明久 Fクラス

「吉井、お前は馬鹿だ」

こつして最悪最低の学園生活がスタートしたのだつた…正直何かの間違いだと信じたいが…この後の出会いは間違いではなかつたのかもしれない

ちなみに紹介しておくと、こつの名前は西村…まあみんなからは鉄人と呼ばれていたりする

その理由は、く簡単でトライアスロンが趣味だからだ…そしてこの鋼鉄の体…鉄人と呼ばれるのはそつと言つた理由からである

「でもな吉井…お前のやつたことは胸を張つていいと先生は思つて
いる」

「西村……」

「西村先生だ…ほら、早く『すみません！』遅刻だぞ！」

西村の怒鳴り声が響き何だかと進んでいた足を止めた

「琴吹か。今日はどうしたんだ」

「あう…恥ずかしい話なんですが…寝坊しちゃつて」

「はつはつはーそりや恥ずかしいな

「わ、笑わないでくださいよー！」

あの西村が笑つた……何だ？今日は何かやばいことでも起きたのか！？まさか…僕は死んじゃうの！？

「じゃあ…失礼します！」

「おひ。頑張れよ」

話が終わつたのか琴吹と言う奴はどうぞんこっちへ向かつて来る…
橙色の綺麗な長い髪が揺れて思わず目線がそっちにいってしまう…

「ん？…吉井君？」

「…………え…？」

突然話しかけられたと思つたら琴吹がじつと覗き込んでいた
しかも…その声は懐かしい

「あ…やっぱり吉井君だ…。久しぶりだね！…といふことはあの時助
けてくれたのも吉井君？」

「まさか…そのおつとりとした態度…由莉奈か？」

一度目の春…僕は運命的と言える幼なじみとの再会をしたのだった

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8448z/>

バカと妖魔と召喚獣～狼少年と白き鹿～

2011年12月26日21時49分発行